



会見でふうあいねっとの設立に至った背景や避難者の現状を説明する(左から)武田副代表、横田代表、原口副代表＝県庁で

からの支援
福島避難者

「ふうあいねっと」発足

20団体連携 個別ニーズ対応へ

東京電力福島第一原発事故の影響で、福島県から県内に避難している人々たちを支援する

団体のネットワーク「ふうあいねっと」が30日、正式に発足し、横田能洋代表らが県庁で記者会見した。「オール茨城」で支援できる体制をつくっていきたい」としており、約20団体が連携して県内各地で交流会を開催するなどし、避難者一人一人のニーズに対応することを目指す。

「ふうあいねっと」がき届かないため、福島県から1000万円の補助を受け、暮らしに役立つ情報を集めた拠点「ふうあいステーション」(水戸市梅香)を19日、オープン。スタッフ3人が常駐し、福島県の地元紙や浜通りの各市町村の広報紙をそろえている。

会見で横田代表は、「避難者の皆さんが何を望んでいるかを吸い上げるため、行政とも連携して、何が必要かを一緒に考えていきたい」と話した。武田直樹副代表は「支援をし

たなくてもノウハウが分からないという人々と情報交換していきたい」と抱負を語った。原口弥生副代表は「避難している人は茨城に地縁、血縁がある人が多い。ビッグファミリーと言える」と話し、支援の輪がさらに広がることを期待した。

福島県大熊町から県内への避難者をつくるコミュニティの男性(50)は「個人情報の壁があり、避難者同士の情報も伝わりにくい。支援者のネットワークは避難者のネットワークづくりにつながる」と設立を歓迎した。

ステーションの開設は火曜日の午前10時から午後5時。問い合わせは029・3533・8560。【鈴木敬子】